

【活動紹介】 研究開発成果発表会

～人と技術を伸ばすことを目的に、毎年研究開発成果発表会を開催しています～

研究開発によって得られた成果や知見を社内で発表することにより、技術の共有・展開・継承とプレゼンテーションスキル向上など、人材育成の促進を図っています。

2010年よりスタートし、これまで開催された13回の発表会で約80件の発表を行ってきました。開発者たちの取り組みや研究開発の成果、また実際に研究開発する中で設定した目標への挑戦や、発生課題に対しどのように取り組み、解決したかなどを発表しています。

～2024年度 発表テーマと概要～

- 新型電圧電流記録計の開発
- 500kV 変電所現地制御装置の開発
- 200V SW 特定計量対応 など全5件

今回の発表では、既存の商品やシステムに、新たな付加価値となる機能の追加・改良、コンパクト化や低コスト化、またお客さまとの共同研究などを発表しました。随所に工夫した点や苦労した点を紹介することで、技術の蓄積や新たな商品・機能の創造へと繋がる時間となりました。



活動報告

～研究開発以外の活動について報告～

「自ら考えて行動、視野と考えを広める、苦手意識の克服、団結力向上および技術力向上を目標に掲げ、若手技術者が集まった独自の研究開発活動の実績報告をしました。」

発表者たちの声

- 日々黙々と研究開発をする中で、自身が苦労した点や、研究開発の成果について知ってもらえるのは嬉しい！今後の開発への意識も高まり、また頑張ろう！と思えた。
- 多くの聴講者の前で発表する機会がないため、とても緊張したが、発表後は達成感がありいい経験になった。
- 誰が見ても分かりやすい資料の作成と説明を心がけた。聞く側の立場にたって資料を作成する重要性について学んだ。

研究開発の中で

苦労した点、困った点など

- 仕様検討や設計の手戻りが多く、計画どおりに研究開発を進められなかった。トラブルが起こることも事前に想定し、開発初期段階でしっかりと計画を立て、さらに技術力やトラブル対応力の向上に努めたい。
- 部品の価格高騰や入手困難に対し、代替部品を速やかに選定するなど、商品リリースや開発遅延が発生しないよう努めた。
- 予測精度の向上を図る際、手法の検討や検証では試行錯誤を繰り返すこととなった。

～参考(過去3年の発表テーマ)～

- ・商業施設向けメータリングシステムの開発
- ・電圧変動合成アダプタ・フリッカメータの開発
- ・可搬型事故点標定探査装置の開発
- ・6kV 配電線用ポータブル事故点探査装置の開発
- ・ユニット式メータに対応した記録電圧計の開発
- ・AI 手法を活用した電力需要予測
- ・複数台 EV 充電コントローラの改良開発
- ・変電所向 電気所サーバの開発
- ・50kW 大容量充放電器の開発
- ・AI を活用したデータ解析
- ・産業用GWの開発
- など

